

事業名 熱海港海岸環境整備事業

「お宮の松」で有名な熱海海岸も、昭和の高度成長期に埋立てられ、護岸と消波ブロックが水際への立入りを拒んでいた。また、熱海温泉の賑わいも低落傾向にあった。こうしたことから、サンビーチ(人工海浜)の整備による海水浴場の復活と、それに続く親水公園の整備により観光地としての新たな熱海を印象づける海岸線を創出し、当海岸は市民や観光客が憩い、安らぐスポットとなっている

受賞機関 静岡県熱海土木事務所

事業実施期間 昭和56年4月1日～平成12年3月15日

事業費 7,312百万円

事業等の特徴

人工海浜の整備により人気のなかった海岸が、一般市民、観光客の憩いの場となり、様々なイベントなどに活用されている。

市民へのアンケート調査や費用便益分析を実施するなど積極的に利用者の評価や事業効果の分析がなされている。

事業の概要と利用者等の評価

本事業の施工地は、「お宮の松」で知られた熱海温泉の中心地である。明治の時代には砂浜が広がり、市民の憩いの場として賑わっていた海岸線も、昭和の時代には都市開発や東海道本線丹那トンネルの残土処理などにより埋立てられた。また、海岸線を守る離岸堤や護岸、消波ブロックが整備され、次第に海と市民とのふれあいのない味気ない海岸へと移り変わってしまっていた。

こうした状況のなか、護岸前面の一角に砂が付き



夏のサンビーチ



親水公園ウォーターフロント部

始めたことから、砂浜を取り戻そうという市民の動きが盛り上がり、海岸を管理する県が人工海浜の整備を、熱海市が背後地の人工地盤及び駐車場の整備を進め、平成元年度に延長400mの砂浜がオープンした。この砂浜は市民からの公募により「サンビーチ」と名づけられ、毎年20万人前後の海水浴客などで賑わっている。

サンビーチと親水公園の整備により、散歩や日光浴をしたり、また、イベントの開催などにより利用者は多く、市民・観光客、老若男女が気軽に憩い安らぐ場所として、利用者の評価も高い。

○評価結果

- ・市民へのアンケート調査(市民1,000名を無作為抽出し、399人から回答を得た。)
- ・来場者への聞き取り調査
- ・費用便益分析(CVM及びTCM)
 - サンビーチ(費用便益比C/B=5.70)
 - 親水公園(費用便益比C/B=4.46)

審査委員会委員の意見等

- ・観光行動の変化のなかで苦況にある温泉観光地の代表例とされた熱海が、活性化に向け転機を画した事業であり、海岸環境整備事業の一つのあり方を示したものとして評価される。
- ・海岸に人々が水辺に親しめる空間が演出され、市民・観光客の憩いの場となり、様々なイベントも開催され利用者の評価が高い。
- ・評価に努力している。このような積み重ねによるノウハウの蓄積と共有が重要である。
- ・憩いの場、賑わいの創出、イベントへの活用など地域の活性化へ貢献している。
- ・活性化が急務の熱海においては、修景が必須であり、一体的な景観形成を必要としている。